

第3回協働推進委員会記録

日時	令和4年1月28日(金) 18:30~20:00
会場	豊明市役所 新館1階 会議室6
出席者	委員：三矢勝司、根尾文彦、石原 慎、古田みのり、兼子幸夫、安井昌代、田内祥子、松本信之、川津昭美(以上9名) 豊明市：市民協働課長、協働推進担当係長、協働推進係職員(1名) 傍聴者4名

議 事

1 三矢委員長あいさつ

2 前回のふりかえり

○事務局より資料1、2に基づき説明

3 協議事項

◆第2次協働推進計画の中間見直しについて

○事務局より資料3、4、5に基づき説明。

— 質疑・意見交換

- ・計画の方針転換は理解出来るが、もっと事前に丁寧な説明があると良かった
- ・資料4はとてもわかりやすく、自分の目指す姿が明確となったので、市全体に広めて欲しい
→次年度以降、市内の各地域で発信していく
- ・評価基準の変更について説明を加筆すべきではないか
→パブリックコメント後に修正を検討します
- ・気づきの部分が一番困難だと考えるが、気づきを与えられる具体的な施策はあるのか
→地域に埋もれている課題に気づいている人はいるが、多数の人に共有されていないために顕在化していないと考えている
気づいている人を拾い上げるのがコーディネーターの役割だと認識している
- ・「普通に暮らせる幸せ」という言葉は昔からあったのか
→高齢者部局から出てきたワードで、市長が気に入り「誰も取り残さない」とともに施政方針で語っている
- ・コーディネーターの現状は
→生活支援コーディネーターとして、市役所2名、社協2名、ちゃっと6名を配置している
- ・コーディネーター的人材の強化と連携とは具体的にどのようなことを指すのか
→様々な分野のコーディネーターの連携を想定しており、具体的なものは図式化します
- ・5年前よりも協働について深堀がしてあり、協働の射程が伸びていると感じた

- ・地域の組織化が大事だと考えている、そのためには人と人との繋がりに重点を置いて欲しい
(顔見知りになることから始めて欲しい)
- ・課題を点で拾うのではなく、面で拾っていくことが大事
- ・担い手探しのポイントは、いかに頼みやすい環境を作るか
それにはともに遊ぶか、ともに作業するかが近道だと感じている
- ・5年前の計画策定時にも出ていたが、一人で出来る社会支援を応援して欲しい
- ・実体験として、市民団体の立ち上げで一番苦労したことは人数を5人集めること
3人目から5人目へのハードルが非常に高く、無理して5人集めると活動意欲に差が生まれやすい
- ・アダプトプログラムという素晴らしい制度があるのに、ネーミングが悪く分かりにくい
- ・表やグラフで使用する記号については、一記号・一概念で統一して欲しい
- ・成功体験や一人の社会支援を蓄積するだけではなく、見える化・共有化をして欲しい

今回頂いたご意見の資料への反映については、パブリックコメント終了後に予定しております

4 報告事項

◆豊明市共生交流プラザの進捗について

○事務局より資料6に基づき説明

— 質疑・意見交換

- ・公共施設の仮予約で前日まで予約が取り消されないのは珍しくないか
→メリット・デメリットはあるが、市内の他施設も同様の運営方法を取っているため、この運営方法を
予定している

5 その他

次年度の協働推進委員会については、後日改めて日程を調整する